





活動紹介!

東久留米スマイル合唱団

本サークルが会館で活動を始めてから13年がたちました。毎月第1・3水曜日に、30名程の会員が集まり、童謡、唱歌、ポピュラーソングなど、昔から歌い継がれている歌集を手で歌います。スマイル合唱団は、関東一円に支部組織があって、その一つがこのサークルです。毎年冬に、成果を発表するコンサートがあり、それに向けて楽しく練習に励んでいらっしゃいます。



2月の催しから

- 1(土)2(日)
「荒野に希望の灯をともし」映画会
医師 中村哲 現地活動の軌跡
- 2(日)
山野楽器ピア / 教室発表会 
- 8(土)
東久留米市ろう者協会講演会
- 9(日)
寺本琉球舞踊発表会 
- 11(火)
オイリュトミー公演
- 15(土)
なでしこ幼稚園作品展
- 16(日)
こども劇場 
- 22(土)
St. berry choir 発表会
- 23(日)
・武蔵野北高校吹奏楽部 OB 会
ラップス演奏会
・くるめザコメティ 
- 25(日)
武蔵野楽器発表会
- 27(日)
稲門会・成美教育文化会館
共催映画会

これらはあくまでも予定ですので変更もございます。一般の方の参加の可否等、詳細は主催者までお尋ねください。



会館事務室から



今月の話題 — 和紙

新紙幣が発行されてから半年と少したちました。ようやく馴染んできたというところでしょうか。日本の紙幣は、極めて高度な偽造防止技術とその丈夫さ、美しさで群を抜いています。質的な特徴は、言うまでもなく和紙という素材によるものです。紙幣は、いくつかある和紙の原料の中でも、ミツマタという植物を使います。ミツマタの繊維は細くて柔らかく、出来上がった和紙は手触りがよく、上品な光沢もあります。しかも印刷しやすいので、紙幣にするにはうってつけです。

そのミツマタ。戦後から現在に至るまで国内の生産量は減り続け、今ではその9割近くをネパールからなどの輸入に頼っています。もともと和紙は、コウソ・ガンピ・ミツマタといった国内でとれた原料を使い、手漉きによってつくられた紙です。しかし、手漉き職人が減り、原料の生産量が減っていく中で、作り方や原料も変わりました。和紙とは名ばかりで和紙にあらずと言ったところでしょうか。純正の和紙は、世界一長持ちする紙と言われます。抗菌、保湿にも優れ、正倉院には当時の和紙が今も変わらずに残っています。「最後の審判」の絵の修復材料や宇宙服の素材にも使われました。伝統工芸といえども変化への対応を迫られるのは仕方がないことです。しかし、本当に価値あるものは守り残していく。私たちも本物の和紙を愛する国民でありたいし、その良さを海外にも発信していきたいものです。

